

I A C T

# 「機能職」を導入

## 新規事業分野を開拓

国際空港上屋（I A C T）は今年1日付で新人事制度の導入を開始した。新規事業分野の開拓、進出を担う「機能職」を導入し、若手13人を任用。上海赴任が決定しているスタッフもいる。同日付では中核業務である現場の上屋関連事業に従事する「基幹職」も導入した。競争が激しさを増す中、「機能職」「基幹職」の選択が可能な新人事制度を導入することで環境の変化に柔軟かつ迅速に対応し、新たなI A C Tを築き上げていく。

新人事制度ではまた、管理職である課長以上の「経営職」などの職群も設置した。いずれも完全導入は2013年4月の予定だ。

同社の勝矢勲人事課長は「基幹職と機能職はこれからのI A C Tを支える車の

両輪であり、どちらも重要な職群だ。3～5年で人事ローテーションを行い、現在ないし将来にわたり社員一人ひとりの育成、活用、処遇を行っていく」と述べた。

機能職は今回、25～30歳の若手社員から募集し、ペーパー試験と面接試験を経て、最終的に13人の任用を決めた。

同社初の機能職となり、海外赴任が予定されている萩原祐介氏（25歳）は、「激動する経営環境の中、当社は人事制度改定という動きに出た。上海赴任という新たな第一歩を踏み出すが、上海での生活、仕事は今後の大きな経験になる」

「この経験が自分一人のものではなく、これからのI A C Tの業態変革などに役立たせ、開拓者となるように頑張りたい」と抱負を述べた。赴任は来年の予定。



I A C Tは将来を見据えて新人事制度の導入を決めた（写真は成田空港貨物ターミナル地区の輸入共同上屋）

制度の見直しに取り組んでいる。